

刊夕 日八十月一十



敵機の爆撃を假想

防護團の各種演習

最少數で最大限の操作訓練

模範火災と假負傷者

平市防護團では防空演習中に於て各種の防護演習を行はれる筈であるが今十八日から二十二日に至る四日の間に左記時刻場所にて進行されることになつた同演習は戦時に於て敵機に襲撃された場合に於て最少限の活動に必要の準備を最大限の効果を收めんとするもので防火演習には假小屋を設け敵機から焼夷弾を投下された假想の下に火を放ち毒瓦斯の投下には歩哨の標識に消毒班の時を置かず駆つけてサラシの撒布から其の他の活動に目ざましき働きを見せ救護班は假負傷者を設ける危急の救護に當り交通班にありては混亂に處する遮断整理等これ等の演習には各婦人團の出動もあつてとれ

支那事變の國債券

三日間で賣切れる

平局の二萬六千五百圓

去る十六日から賣出された支那事變國債の平郵便局當面では各券を合せる二萬六千五百圓に對して、二十五圓券六枚、五十圓券八枚、百圓券二十六枚、五百圓券十七枚、計一萬一千八百五十圓が忽ち消化され第二日の昨十七日

日刊報日曜日誌
日刊報一ヶ月廿五圓
日刊報三ヶ月七十五圓
日刊報六ヶ月一百五十圓
日刊報一年三百圓
發行所
石城郡平井町三
新井町新開社

座講識

リジエクトは排斥する否快する棄却する意だ
がリジエントは古傳
史の類でリジエントと云
へば辭表或は辭職する
こと、リジエツなら受
取ること受領すること

談美後銃

全白髮の老嫗

納豆賣で獻金

小學校へも金二十圓

今十八日午前十時頃平野の窓口に二歳の孫を背負て皇軍慰問費に獻金したいと申出たので受付の署員が渡邊兵主事任に案内すると溢るゝ熱誠の語下に金卅圓を差出した身許を賣すと内郷村の上宿字久世原納豆製造業阿部く(六六)さんと稱し昨年春から毎朝平まて納豆を配達した勤勞を金に見積り貯めて置いた金五十圓から御願小學校へ廿圓を寄附した後の現金であると判り感激に打たれた渡邊部長が老ひの身の精勵を聴いて更に感服した同郷は伊達郡半田の生れで今から卅一年程前當時十二

四倉上水道の竣工祝賀

石城郡四倉町に於ける上水道竣工祝賀式は昨午防空演習の施行等から日取を懸懸とも打合せ中であつたが来る二十八日(日曜)午前十時の舉行に決し同町ではこの準備に忙殺してゐると

感謝祭

子銀倉八幡の兩社で来る二十三日の新嘗祭に於て全國一齊に舉行される新穀感謝祭は平市に於ては當日子銀倉及び飯野八幡の兩神社にて舉行されるが右は國家祭典として報本反始の精神を高揚すると共に國家の興隆に資せられるやう各種社務を執行することと準備委員として荒木貞夫大將、有馬頼厚伯、郷誠之助男、酒井忠正伯、松平頼壽伯の諸氏を挙げられ同祭典の爲めつくされてゐる

小串嶺山の父の消息を調査願

災禍の小串嶺山へ今年七月初め石城郡内郷村の磐城嶺坑から坑夫に轉した山田謙次さん(二六)を知人の同村宮字蛭子六六總澤誠司氏方に託してゐるが今回の小串の災害が氣遣はれ謙次さんの消息を電報で照會したが返事がなく娘が父の許に行きたがつてゐるが小娘を一人やるのが不安であるとの今十八日誠司氏から平野に其の安否の調査方を願出た

製簇器講習會

石城郡製簇器講習會では明十九日から二十日に至る二日間平野製簇器講習會に於て池下式製簇講習會に於て製簇器は一坪新様にして發せられたり一坪半で十六燭、六燭で二十四燭、八燭で三十二燭を限度とし如何に大きい燭であつても五十燭より強い燭火はつけられないことになつてゐる、此の場合窓際や出入の近くに燭火を置かぬこと、斯で非常管制の場合にはどうして發せられる燭火は消さなければならぬ、

赤誠

其れが解かれるまでは非常管制を行はれる
その行方方は消して我慢が出来ず電燈は消す、戸を閉めても外から見える燭火は消す、屋内の燭火でどうして消すことの出來ぬものは出入口や雨戸、窓その他から外部に光が漏れない様に完全に隠す、隠すことが困難であり又商賣上それが出来ぬならば非常管制中だけ燈器に覆ひかけて下方だけを照らす様にす、

農産品の授與式

石城郡田村の農産品評會は今十八日優良品に對する賞品授與式を舉行柴田郡農技手臨席した、

山田の坪刈品評

石城郡山田村の坪刈品評會は来る二十日に催されるので郡農會から柴田技手出張の由

三村聯合農品

石城郡上遠野、入遠野、田人農會聯合農産品評會は二十二日から三日間入遠野小學校で開催郡農會の柴田技手審査に出張すると

二ヶ村聯合農品

石城郡小川、赤井兩村聯合農産品評會は来る二十七八

謹告

今般亡父の名を襲ひ與三郎と改名仕候間先代同様格別の御交誼御引立を賜度此段以紙上御挨拶申上候 敬具
昭和十二年十一月
清三事
改名 山崎與三郎
平市古報治町三

郡農同業總會

石城郡農産品評會では来る二十日午後一時から平市平陽女學校に臨時總會を開き産物統制法の施行による定款一部の變更及び平市市制施行で郡農同業から分離する否かについて協議をなすと、

白梅便箋

忠孝便箋
文鳥便箋
名作詩箋

魁文堂

今晩は北の風、曇時々晴
明日は北西の風、曇後晴
電話一三三

店舖擴張

平郵便局横丁
南町通り角に
移轉致しまし
た、倍舊の御
引立を御願ひ
申します
直龍軒理髮舖
店主店員一同
グイブレター應用
快術、お顔のアレ止
にグイブレター應用
美顔術、

産業方百

剥ぎ方 (中)

内田清之助博士が秘法を教える

この時前肢のみ丸剥ぎとなるから尖端だけの皮を切り取り内側から切り開けば一平面となる。

乾燥の方法、毛のある方を板の面に置いて釘を打ちつけて板張りにする、皮を張る前に耳と尾を切り取る

皮面に附着してある脂肪の塊りや乳線の塊りなどは皮に傷をつけぬ様に丁寧に剥ぎ取る。

毛その他に血液が附着してゐる場合は綺麗に水洗ひする

乾燥の際は火の近くで急に乾かしたものは役に立たぬから注意すること

張板から毛皮を取はずすのは皮の厚い頭と肢部が十分乾いてからはずす

剥ぎ取つた生毛皮はその日のうちに板張をなし日陰で乾すこと、天気が悪く乾燥出来ぬ場合は天候回復まで内面に紙を張りつけ肉面と肉面を合せて置くのも一方法である

乾いた毛皮を貯蔵する場合には毛と毛、肉面と肉面とを合せて重ねその間に粉未ナフタリンを僅か撒布し虫害を防ぐこと

以上で内田博士の講習の要領は終つたが養兔事業を農山漁村の副業として奨励してゐる新潟縣農務課ではメリケン、イタリヤン兩種(主として毛皮用)の養兔を奨励してゐたが今年からアンゴラ兔を毛皮

用種と併行的に奨励することになつた。

藤沼醫院

平市紺屋町 電五〇七

産科 院長 木村寅次郎
婦人科 醫學博士 内木宗八
外科 藥劑師 大岩俊雄
藥局 藥劑師 大岩俊雄

平市新川町九一
入院隨意 病室完備

木村病院

電話一六四四

帝國海上火災保險株式會社


代理店 關内正一
平町二丁目 電話一六番
事務取扱者 阿部助次郎

生公羊

山野邊藥局

五丁目角

四〇〇瓦入 五十圓
八〇〇瓦入 九十五圓
一五〇〇瓦入 二圓計
五瓦十枚入 四圓



本年流行

ヘルベツト地

婦人シヨール

三、八〇より 一三、〇〇まで

豊富陳列

ツルヤ

平四・電一四〇

平病院

(平市元共濟病院跡) 電話六四一番

院長 醫學博士 鈴木定藏

内科 院長 醫學博士 鈴木定藏
小兒科 部長 醫學博士 池谷宗三郎
産婦人科 部長 醫學博士 鈴木定藏
皮膚泌尿科 部長 醫學博士 鈴木定藏
物理療法科 技師 岡田重德
藥劑科 部長 藥劑師 吉本孝平

診療時間 毎日午前八時より午後九時まで
夜間診療に從事す(急患は此限にあらす)

往診隨時、病室完備 (自炊の便あり)

益屋商店

九九・九電

和洋銅鐵、金物問屋

平看護婦會

平市南町 電話三〇七

二新時代の要求

附屬事業に等外看護婦を特設いたし皆様の御用向へ身元確實なる婦人を派出致します

御手不足の御家庭 軽い御病人の付添 妊婦産婦の御家庭

齋藤齒科醫院

平市田町(藤田女學校前)

齋藤齒科醫院 齋藤賢三

診療科目 口腔外科、補綴科、保存科、齒列矯正科、小兒齒科、(其他齒科一般)

診察時間 毎日夜診 日曜午後休み

横山商店

債券部

町間仲市平

〇一六〇九東京管振 番一七二話電

日下家政婦會

便利で 經濟な 日下家政婦會の 派出婦を御利用下さいませ

元確かて品行方正ですから 何をお任せしても安心です

平市田町十八(西村農協前)

會長 日下すい子 電話七二三番

「看護見習募集」

明雲堂眼科醫院 (電話六六九)

平田町(三丁目裏川岸通) 入院應需(自炊の便あり)

一般印刷物も御引受致します

新しいわき新聞社